

## 事務局だより

### 1. 4月1日現在の会員数

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
42	32	30	30	134名 (Eグループ会員：119名)

退会者 萬豆 哲夫氏 (県央)、上野 貞雄氏 (湘南)

入会者 夏目 正明氏 (湘南)、亀丸 広司氏 (湘南)

### 2. 運営委員会より

第33回通常総会の準備が進んでいます。総会議案書など必要な資料も、5月上旬には、お手元にお届けできる予定です。

昨年同様、総会終了後には、ささやかですが懇親会(会費 1,000 円)を開催します。総会と懇親会が地域じゃおを超えた交流の機会となるようお願いしております。

開催日：5月26日(日)

総会：13:00～14:30

懇親会：14:30～16:00

場所：オルタナティブ生活館 オルタリアン



### 3. 次回の運営委員会

日時：2024年5月26日(日) 10:30～12:00 オルタ館 203 会議室

議長：福山委員、書記：増子委員

## 会員だより「季節のテーマ」執筆のご参考

事務局からのご案内です。会員だより投稿のご参考として「季節のテーマ」の一部(5月から10月)を掲載します。皆様の執筆に役立てていただければ幸いです。

5月	こどもの日、運動会、ゴールデンウィーク、母の日、お祭りなど
6月	父の日、梅雨、夏至など
7月	七夕、お中元、土用の丑の日、暑中見舞い、暑気払いなど
8月	夏休み、夏祭り・花火、お盆、花火大会、プール・海水浴など
9月	防災の日、敬老の日、十五夜、お彼岸・秋分の日、秋祭りなど
10月	体育の日、紅葉狩り、栗拾い、ハロウィーンなど

### 復興はいまだ道半ば 原子力災害の影響大きく

～木幡四郎さんに聞く～

多摩・田園 竹内 純一



町田市在住の木幡四郎さんは、東京電力福島第一原発事故で福島県浪江町(なみえまち)から避難してこられました。じゃお南多摩(当時)が、被災者を対象に蕎麦打ちを開催したことをきっかけに、じゃおクラブに入会されました。福島応援の被災地見学ツアーや被災者応援イベントでは、被災者とじゃおクラブを繋ぐきっかけを作ってくださいました。

その後、被災者支援が忙しくなり、じゃおクラブを退会されましたが、今も、被災者を支援し続けておられます。浪江町の今について伺いました。

避難した頃、じゃおクラブの皆様からいただいたご支援に対しお礼を申し上げます。あの時はありがとうございました。今日は、被災者の今と復興についてお話をいたします。

#### 被災者の今

現在は、避難先に永住する人がほとんどになりました。帰還した人も一部おられますが、様々な問題に直面されています。たとえば、帰還した家の周囲に誰も住んでいない、近隣に害獣(アライグマやハクビシンなど)が住みついている。持病があるが専門のお医者様がいないなどの問題があります。中には、止むを得ず、元の避難先に戻る人もおられます。

私たちは、孤立する人を無くそう、孤独死を無くそうとしています。そのために、常に被災者との連絡を絶やさないよう努めています。しかし、昨年、全く連絡がつかない人が4名おられました。

ある日、社会福祉関係や、東京都の方から連絡があって、マンションの管理人の許可を得て立ち入ったら亡くなっておられたということがありました。これまでに孤独死された方が2名……。力が及ばなかったのが残念で言葉もありません。

#### 浪江町の現実

浪江町では人口に占める帰還者の割合が低く、しかも帰還者は高齢者ばかりです。若い人たち、子供を持つ人たちの帰還が進んでいません。

	人口	人口のうち帰還者	世帯数
震災前	21,700人		6,653世帯
震災後(2024年2月)	15,079人	2,186人	1,380世帯
備考	震災前の69.5%	人口の14.4%	震災前の20.7%

今の浪江町の人口の約1/3は移住者です。浪江町への移住・定住に対しては、復興予算を使った手厚い移住・定住促進策があります。行政は移住を促進するため、復興予算で移住支援金を出していますが、戻れない被災者はどうなるのでしょうか。

**【筆者注：手厚い移住・定住補助】** 移住支援金は移住を促進する仕組みで、移住希望者の条件によって

---

様々な優遇策が用意されています。他にも、起業支援、東京圏在住の人が浪江町に移住し対象企業に就職した場合の支援金、町内で事業を再開する業者の光熱費の補助金、町内の飲食店が食材を調達する場合の補助金、新規に就農する人への家賃補助や収入補助、浪江町に移住する人が住宅を購入する場合の補助金などが用意されています。

何と言っても、放射線被ばくに対する不安が大きいですね。たとえば、飲料水の元はダムから来ています。ダムの水の放射線量が下がったというのが理由です。しかし、ダムの底に汚染物質が沈んでいるかどうかは、私たちにはわかりません。ほんとうに安全・安心かどうかは知らされていないのです。台風などでダムの水がかきまぜられたらと思うと不安ですね。

国はALPSの処理水を希釈して放流しました。その後、放流地点から50km離れたところで汚染された魚が見つかったという話があります。私たちには因果関係もよくわかりません。

健康被害も不安ですね。県や町からは「健康に関するアンケート」が届くので、毎回、返答していますが、放射線被ばくとの関係については触れられていません。病気になったとか、具合が悪くなったとき、病院で調べてもらっても、放射線被ばくが原因ではないと言われます。不安を訴えても対応してもらえないので心配が募ります。

被災者にとって税金も不安の一つです。現在、帰還困難区域の固定資産税は免除されています。しかし、特定復興再生拠点区域では除染が進んだとして避難指示の解除が進んでいます。それに伴って、固定資産税やその他の税金の減免が変わります。止むを得ず浪江町から離れて暮らす被災者には大きな負担増になります。

### **被災者から見た復興支援へのジレンマ**

行政が実施する事業は復興支援予算で成り立っています。復興庁の管轄ですね。この予算を使って、様々な事業が行われています。代表的なものとして「浪江駅周辺グランドデザイン基本計画」があります。著名な建築家である隈研吾さん、美術評論家の伊東順二さん、住友商事の三者が浪江町と共に計画したもので、隈研吾さんの建築の特徴である「木」を生かしたデザインで、住宅や交流施設、商業施設などが建設されます。浪江町の材木は使えないので、会津を主に県内の材木を使用する予定です。建築にあたっては、経済復興のため多くの地元業者を優先して採用してほしいのですが、どうすればよいかなどの課題があります。行政は復興支援の打ち切りを見越して、令和8年から令和9年までに造るとしています。

完成したものとしては「道の駅なみえ」があります。私は建設予定地に自宅がありましたので、早い段階で国に買い上げてもらいましたが、買い上げる時期によって金額にかなりの差があったと聞きました。詳しいところは確かめようもありませんが……。

### **本当のことが伝わらない**

今日は、被災者の立場から見た浪江町の現実を率直にお話させていただきました。限られた時間でのご説明は難しいのですが、これだけは知っていただきたい。テレビや新聞など、報道で取り上げられることは、被災地、特に原子力災害を受けた浪江町の、ほんの一部でしかありません。被災者は、今も放射線被ばくによる健康被害の心配、生活の再建、復興予算打ち切り後の影響など、数々の不安と向き合いながら生きています。

短い時間でしたが、私たちの現状に目を向けていただき、ありがとうございました。これからも、ご支援のほど、よろしく願います。(4月5日、多摩・田園定例会終了後の講演より)

## 移住の記－その3

佐賀県小城（おぎ）市小城町 （県央）前田 康行

### 桜を観る

もうずいぶん昔のことで定かではないのですが、確か小学校1年か2年時の国語の教科書に、桜吹雪の中、母親に手を引かれて入学式に向かう新小学1年生の絵が描かれていて、子供心に、東京では入学式の頃に桜が咲くのかあ、と思った記憶があるんですよ。生意気にも、教科書を作る会社って東京にあるんだろうから、これは東京の風景だと思ったんでしょうね。私の生まれ育った九州佐賀県だと、桜が咲くのは3月で、入学式が行われる4月7日とか8日の頃にはもう散ってるのが当たり前だったんだと思います。いずれにしろ、今から60年以上も前のことです。その頃は全国で桜の開花が最も早いのは九州で、それから徐々に北上していく、というのが通常だったのではないのでしょうかね。ところが昨今の都市型気候の進行や地球温暖化やらで、日本全国、桜の咲く時期が分からなくなってきました。近年の東京では、開花時期が九州より早かったりしますもん。挙句の果てに、3月の中旬ごろに咲いて、桜が卒業式の風景になったりする年があったりとか。

で、今年2024年の桜ですが、これがけっこう遅くて、満開が4月になりました。東京では6、7日の土日が満開のタイミングだったようです。わが佐賀県小城市はその前の4月1日、2日が満開でした。写真は小城市の有名な桜の名所、小城公園の4月2日の桜です。えー、小城公園は日本さくら名所100選に選ばれた、それはそれは美しい公園でして、旧鍋島藩の支藩のお殿様が築かれた藩邸跡です。鍋島の前には戦国時代だったかな、千葉氏の時代もあって今のような美しい公園が出来上がっていったのかなんとか。いかんせん、大学受験で世界史を選択したせいで日本史にはほんとに疎くて、せつかくのわが佐賀県の名所なのに、これ以上詳しく小城公園の由来を皆さんにお伝えすることができないのが残念です。戦前の旧制中学生は江戸時代の徳川15代にわたる全将軍名を覚えさせられたとか聞きますから、昔の人は日本史に詳しくあったんだろうなあ。

今年の桜の話に戻ると、今年はこの10年の中でもっとも遅い開花、満開だとか。鹿児島なんて東京よりも遅いんじゃないかなって思いました。さらに、一斉に咲き誇るのではなくて、だらだら咲きなんだそうです。これは、この冬が暖冬で寒さが強くなかったからだって専門家が言ってました。植物って微妙で、花を咲かせるには低温に晒されることが大事だそうですね。そういえば、チューリップも球根を植え付ける前に冷蔵庫で冷やしておくといわれてますもん。我が家の畑にも、ちょっと色味を付けようというわけでチューリップやアマリリスを植えてますが、冷蔵庫に入れなかったにもかかわらず、チューリップは順調に咲きそろう、アマリリスもちゃんと花芽を付けてます。桜はちょっと繊細なんではないかな。あ、古家を解体して現れた広い更地をどうするか思案してましたが、森を作ろうかと思い立ちましてね、ソメイヨシノを3本植え、その間にハナミズキを植えました。あとは、モミジ、陽光桜なんかも植えるつもり。柿の木も植えましたよ、渋柿の愛宕柿。秋の色どりと干し柿用です。四季の移ろいを感じられる風景を作りたいと思います。



(2024年4月2日、佐賀県小城市小城公園の桜)

## 芥川賞

梶央 江上 寛

芥川賞は毎年上期（7月）と下期（1月）の2回、選考委員によって選ばれ発表される。

受賞作は雑誌「文芸春秋」に全文掲載されるので、私はこの掲載号をなるべく買って読むことにしている。

私のような単調な日常を過ごしている者にとって、芥川賞作品を読むことは、小説の中でのことではあるが、別世界からの視点で世の中を見る機会となる場合があり、大変興味深い。

令和5年度下期の受賞者と受賞作品は、九段理江の「東京同情塔」で、三月号の文芸春秋に掲載され発売された。

この作品は、「シンパシータワートーキョー」の建設を巡って、建築家の女性を中心に話が展開する。

私が興味を持って読んだのは、この塔の建設目的及び運用ルールである。

塔は要するに「刑務所」で、“東京の新宿御苑にスカイツリーと東京タワーに次ぐ高さで建設される計画である。”（“ ”内の文章は作品からの引用文、以下同。）

我々が刑務所と言えば、「犯罪者」が一定期間社会から隔離されて「更生」を目的に収容される施設である。「犯罪者」は心情的には、悪い人、出来るなら遭遇したくない人、厳しく罰してほしい人であり、差別的な目を持って見がちな存在である。ところがこの作品では、「犯罪者」に対し、「同情されるべき人々」とし、その出自や境遇やパーソナリティーについて「不憫」「あわれ」「かわいそう」といった同情的な視点を向けているのである。「犯罪者」に対する視点が私と全く違うので、大変興味深く読んだ。

例えばA子さんの場合、“母子家庭に生まれ、母親からネグレクトを受け、食事も服も満足に与えられず、小学校では酷いじめに遭いました。先生に相談しても聞く耳を持ってくれません。中学に上がって不良仲間とつるみ、夜の街で大人の男性と交際し、妊娠し、男性には捨てられてしまいます。一人でクリニックに行き中絶を頼みましたが、どこの医院でも中絶同意書に子供の父親のサインが必要と断られます。結局15歳の誕生日過ぎたころに自宅の浴槽で男の子を出産しました。中学を卒業していないA子さんは、働くこともできず、赤ちゃんを育てるためミルクや離乳食や総菜を商店で万引きしながら日々必死に生きています。万引きに慣れてくると、仲間と協力して盗んだ商品をインターネットで売って生活費にしました。”と、罪を犯さざるを得なかった背景に着目、A子さん以外の「レイプ犯」や「殺人者」も、“たまたま個々の生い立ちや環境が恵まれていなかったために、やむを得ず罪を犯さざるを得なかった。あなたが「犯罪者」にならずに済んでいるのは、たまたま恵まれていたからなのです。”と書いている。“A子さんは窃盗罪、建造物侵入罪、詐欺罪により現在女子刑務所に服役中である。”

このように「犯罪者」は、「不憫」「あわれ」「かわいそう」な「同情されるべき人々」であるとして、なんと！「刑務所」ならぬ、“夢のような・天国のような施設、塔を見上げた時内部・外部の両面から、人類の平和と人間の尊厳を実感する建築。塔の低層部分を開放しパブリックスペースとすることで同情、共感、連帯を育む場とし、多様性をも認め合いながら共生する象徴としてのエントランスを実現する。世界一幸せな日本の刑務所。刑期を終えて出所日を迎えても、出所した人は一人も居ない。彼らには拘留期間を無制限に延期する権限が与えられている。”

このような塔の建設をめぐる話である。

さて、このユートピアのようなタワーは、はたして建設されるでしょうか？この物語の先が知りたい人は受賞作を読んでください。

## 健康学園

ベイサイド 大澤 輝之

古いアルバムを整理していたら、「東京都墨田区立健康学園」の卒園アルバムが出てきた。もう 70 年以上昔のものである。

健康学園というのは東京都の各区に設けられていた、今でいう特別支援学校に類するもので、伊豆や千葉など空気のきれいな土地に建てられていた。墨田区では、各小学校から病弱や偏食など健康上の問題のある児童（4～6 年生）が 85 人位入園し、集団生活をしながら通常の授業を受けていた。健康上の問題があるといっても、皆日常生活は全く問題ない程度で、元気いっぱいに過ごしていた。

調べてみると、現在も健康学園と名乗って存在するのは中央区立だけで、他の区ではすべて廃止されている。墨田区立健康学園は昭和 27 年当時、国鉄西千葉駅に近い黒砂海岸にあった。風光明媚な場所で、松林の向こうは遠浅の海。海岸では潮干狩りし放題、海苔を乾燥させる「海苔簾」が並び、漁師さんの家が点在する天国であった。今は埋め立てられてその面影は全くない。工業・住宅地区になってしまったためか、その後千葉県富津に移り、いつのころか廃止されてしまっている。

私はその学園に小学校 4 年の 2 学期と 3 学期の約半年、入園した。（させられた。）

世田谷区で生まれ、戦中は長野県に疎開し、終戦の年の秋に当時大蔵官僚だった父が急逝（ペニシリンが手に入ったら命に係わるような病気ではなかったとか）、母は実家に帰り、私と 1 歳下の妹は大空襲の中心だった墨田区の祖父母の家で育てられることになった。ところが私が小学校 2 年の時に妹が、不慮の踏切事故で亡くなってしまい、親のいない一人っ子になってしまった。

そんな経緯もあってか多分、わがままな手に負えない子供だったのだと思う。集団生活に放り込めば多少は良くなると思われたのだろう。身体は健康そのものだったが、ツベルクリン反応の陽転を理由に、入園を許可されたと聞いている。

学園生活は楽しく、記憶は薄れているが、ネガティブな思い出は一つもない。

この写真は当然白黒だが、11 人の 4 年生から 6 年生の男女がパンツ 1 枚で乾布摩擦のポーズをしている。このグループが、学年別の教室での授業中は別として、四六時中一部屋で一緒に生活するのだ。白衣の女性が各室専任の養護教諭、メガネの男性は園長先生だ。

お風呂もグループ一緒だったと思う。女の子も 6 年生くらいになると体つきが変わってきて、よく「何々ちゃん、おっぱいふくらんできた」とか「毛が生えてるよ」なんてからかったものだ。

みんな違う小学校から来ていたので、その後は一度も会うこともなく、みんな今はどうしているだろうか、時々思い出すことがある。

それにしても、現代にこんな管理をしていたら、まず週刊誌などが騒ぎ出し、区長や教育長の首が飛んでいるかもしれない。本当に大らかな時代だったと思う。

祖父母に心配や迷惑をかけていた私が、人見知りもせず、社交的な性格に育ち、学生や社会生活を全うできたのは、この健康学園での経験が原点だと思っている。

写真：後列向かって左端が筆者



### 「じゃおグリークラブ」－発足の経緯

「じゃおグリークラブ」は、平成24年(2012年辰年)3月に発足しました。前年の12月にオルタ館で20周年の簡単な記念パーティーを開いた時に、県央の宮松さんの紹介でサクソフーン奏者兼テノール歌手の内村寛治さんお招きして演奏会を行いました。その時の懇親会の席で男性コーラスグループを作ろうと言う話が出て来て希望者を募ったら約20名(内9名が湘南所属)の人が手を挙げました。

早速内村寛治さんと奥様の由生子さん(ピアノ伴奏)に御指導を頂けるかどうかを伺ったところ快諾して頂きました。翌1月の運営委員会で承認を得て準備に入りました。立ち上げ時点では湘南のメンバーが一番多かったので湘南の活動と言うことになりました。

まずピアノが備わっている練習場所の確保が必要です。2月の場所の確保には間に会いませんでしたので3月の練習場所として藤沢駅近くの「藤沢市民の家」の12畳の畳の部屋を予約しましたが、ピアノは有りません。手持ちの鍵盤数32の玩具の電子ピアノでの練習でした。4月からの練習は原則として月一回として、辻堂駅近くの明治公民館の音楽室を予約してピアノ付きの練習が始まりました。

しかし月一回の練習では物足りないと言うことで6月からは月二回の練習になりました。湘南以外の南多摩、県央、田園、ベイサイド等からの参加者もあって当初は15名位の参加者があり、ほぼ毎回懇親会を行っています。立ち上げから丁度12年が経過して13年目に入りました。立ち上げ時のメンバーは3名しか残っていませんが、途中で加わって頂いた方もあって何とか12名のメンバーが保っています。楽譜を読めなくても大丈夫！是非一度見学にもおいでください。

2014年からは「みなとみらいホール」でも歌っています。次回以降に紹介させていただきます。

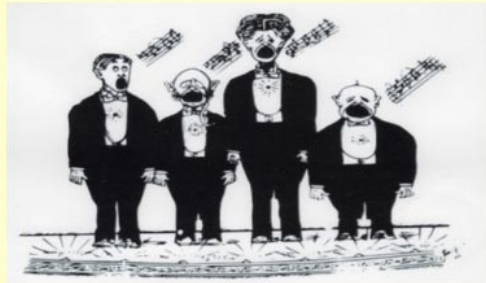
(湘南 新藤 正則 記)

## メンバー募集中！

### じゃおグリークラブ

殆ど楽譜は読めないがコーラスで歌ってみたい！

結成13年目・平均年齢81歳の男性コーラスグループ！



歌は心の栄養剤！

歌うことは認知症予防にも繋がる！

練習後の反省会もまた楽し！

練習日：原則として第一と第三木曜日の午後

場所：藤沢市 明治公民館(辻堂駅から徒歩7分)

指導：内村寛治(テノール歌手)・由生子(ピアノ)先生

ピアノ：内村由生子先生

参加費：2,000円/回

連絡先：柏瀬安史 (080-6805-0231)

「じゃおクラブ」のホームページも御参照下さい。

## JAVIC（仮想投資クラブ）2023年度 下半期活動報告

JAVIC（仮想投資クラブ）は、上期（4月から10月）と下期（10月から翌年4月）の期間において、割り当てられた仮想の元本1億円をどれだけ増やせたかを競っています。

この2023年度下半期（下表参照）は、日本株、米国株とも絶好調でした。日経平均は31,000円近くで始まり途中3月にバブル後最高値を更新して40,000円まで一気に駆け上がりました。10月から約26%増でした。一方、米国株も堅調でNYダウが16%増、大型株のS&P500は21%増、ハイテク株のナスダックも21%増で推移しています。一方、為替は日銀のマイナス金利解除の方針発表で1ドル144円まで一時的に戻りましたが、市場の判断は、日米の金利差縮小には時間がかかるとのことで、すぐに1ドル150円程度に戻り、円安が常態になってしまったようです。対ユーロでも1ユーロ164円とこの10年来の最安値になっています。金価格は10月に中東の有事（イスラエルのガザ侵攻）も勃発したためか、「有事の金」の格言どおりこの半年で27%高になっています。

上述のように、この6か月間のJAVICの長い歴史の中でも稀にみる良好な市場環境でしたので、高いレベルでの争いを予測しましたが、個別銘柄の動きは必ずしも市場全体の流れどおりにはならないのが常ですので、最終結果は下記の通りでした。1位のMi氏は+24.0%、2位のO氏+23.7%、3位のF氏は+21.8%と上位3人は市場とほぼ同様の結果を残せましたが、他の方々は市場の波には乗り切れずに+10%以下に止まりました。

因みに、参加者が選んだ銘柄でこの期間の値上がり率の上位5銘柄は、第1位 第一工業製薬(102.4%)、第2位 DMG 森精機(62.10%)、第3位 コスモエネルギーHD(62.07%)、第4位 三菱重工(59.94%)、第5位 ジェイドグループ(57.89%) でした。

2024年4月8日

### 2023年度下半期 JAVIC投資 月次報告表

1. 総合成績										決済日：4月5日
氏名	開始月	銘柄数	11月	12月	1月	2月	3月	4月	順位	マクリ
O	10月	10	103,721.4	104,931.9	109,275.2	112,058.9	120,995.9	123,732.9	2	14,457.7
K	10月	8,7	98,028.5	102,948.5	99,677.0	98,442.0	95,849.5	95,177.5	7	-4,499.5
S	10月	10	102,859.7	101,399.9	102,863.9	106,240.6	114,611.8	109,448.7	4	6,584.8
B	10月	9	97,115.0	94,383.0	97,759.5	101,564.5	107,538.0	104,134.0	6	6,374.5
F	10月	8	102,643.0	103,371.0	108,314.0	111,498.0	122,365.0	121,752.0	3	13,438.0
Ma	10月	7,10	100,894.5	100,822.0	104,439.5	106,283.5	104,465.2	106,260.9	5	1,821.4
Mi	10月	5,7	104,060.0	102,473.5	106,930.5	119,298.5	123,744.5	124,067.5	1	17,137.0
日経225	30,994.67(100.00)		32,568.11(105.08)	32,307.86(104.24)	33,377.42(107.69)	36,897.42(119.04)	39,688.94(128.05)	38,992.08(125.80)		
TOPIX	2,264.08(100.00)		2,336.72(103.21)	2,324.47(102.67)	2,393.54(105.72)	2,557.88(112.98)	2,726.80(120.44)	2,702.62(119.37)		
NY.Dow	33,407.58(100.00)		34,283.10(102.62)	36,247.87(108.50)	37,466.11(112.15)	38,671.69(115.76)	38,722.69(115.91)	38,904.04(116.45)		
INX(S&P500)	4,308.50(100.00)		4,415.24(102.48)	4,604.37(106.87)	4,697.24(109.02)	5,026.61(116.67)	5,123.69(118.92)	5,204.34(120.79)		
COMP(NASDAQ)	13,431.34(100.00)		13,798.11(102.72)	14,403.97(107.24)	14,524.07(108.14)	15,990.66(119.05)	16,085.11(119.76)	16,248.52(120.97)		
米ドル	149.32		151.50	144.99	144.75	149.30	147.07	151.61		
ユーロ	158.07		161.82	156.02	158.31	160.98	160.85	164.27		
金(1g,円)税抜	8,746.36		9,581.81	9,416.36	9,551.82	9,818.18	10,310.91	11,161.81		

JAVICのメインの活動は、仮想投資の成績を競うことですが、毎月の定例会はまずは直近の世間一般の動きに対しての歓談から始まります。株や為替の話というよりは、世間で話題になっている政治、経済、スポーツ、病気等々の話がメインです。重要なのは、世間の動きから取り残されないようにいろいろな情報に触れることではないかと考えています。また、高齢化の進む中で定期的にメンバーと会って談笑することは、専門家も指摘しているように認知症の予防など健康の維持にも繋がると思います。ご興味のある方は是非ご連絡ください。体験参加も歓迎しております。

(湘南 大出 佳和 記)



## 農園日記—農園花見会—

4月6日(土)晴、じゃお農園創立20周年を記念して、8年前に植樹した桜の木の下で15名の仲間が集まり「もつ鍋」を囲んで「じゃお農園お花見会」を楽しみました。

当日は、農作業を中止して全員が会場作りから火おこしと調理まで手分けして行いました。宴会に使う長椅子を軽トラックで運び入れましたが、これは昔、宇多村さんが作ったものです。

会場は草がぼうぼうでしたが三人の農園世話役さんが三日前にきれいに刈り取っていました。記念樹の桜は3本ですが1本は永田園主から贈って頂いた「陽光桜」で、あとの2本は「ソメイヨシノ」です。「陽光桜」は満開で、散り始めていましたが、「ソメイヨシノ」はまだこれからです。



宴会の食事もつ煮・カップ麺・みたらし団子・飲み物は缶ビール・日本酒・ノンアルコールを1000円会費で賄いました。誰かが農園から採ってくれたエシャレットもよい酒の肴になりました。永井さんが「もつ」を自宅の圧力鍋で下茹でしてくれたので、白味噌仕立ての「もつ鍋」は柔らかくとても美味でした。にわか仕立ての四角のテーブルを囲んで会話を楽しんでいると昨年10月に入会された小糸さんがハーモニカの演奏と得意な手品を披露してくれて会場はさらに盛り上がりました。



今日はとても楽しいお花見会でした。細かい気遣いをして頂いた農園世話役の小坂さん、永井さん、早川さんのおかげです。本当に有難うございました。

私が撮影した写真を皆さんに送ったら小糸さんからお礼のメールと写真に七五調の歌詞を書いた画像を頂きました。お花見会の楽しさとじゃおの明るい未来を歌っていますので披露させていただきます。

記念樹の桜舞ひ散る木の下で もつ鍋囲み語らへば  
じゃおの未来は花盛り

(湘南 島村 忠男 記・写真 小糸 賢司・島村)

## ボランティアフォーラム

～「場づくり・人づくり・機会づくり」に参画して～

1月末に藤沢市の指定管理者である「藤沢市市民活動支援施設」の関野センター長から私に連絡がありました。3月に「藤沢市社会福祉協議会」と共催するのだが、中高年男性の居場所と出番を提供する「じゃおクラブ湘南」に事例発表をしてほしいとの依頼でした。関野さんとは昨年3月にじゃお農園に取材に来られた時以来の知り合いでした。

来場者は「藤沢市市民活動支援施設」の登録団体と藤沢市広報で公募する一般の人を含めて30名を予定しているそうで、事例発表を3団体が順番に持ち時間10分間以内で行い、そのあとにグループワークを実施する計画でした。じゃお湘南の広報活動の絶好のチャンスですので広報に携わるメンバーの了承を得て早速準備に入りました。

開催日は2024年3月24日(日)、開催場所は藤沢市役所分庁舎2F活動室でした。島村が連絡調整係になり、ナレーターを安田さんと増田さんをお願いしました。10分間の中で安田さんはじゃお湘南の活動紹介ビデオの放映を、増田さんは口頭での「追加説明」を担当しました。安田さんは初体験でしたが2020年に小坂さんが作ったPowerPointを最新の情報に更新して、自分の音声を入れたVideoを作り当日に備えました。



あらかじめ来場者全員にじゃおクラブのチラシを渡して、増田さんは、

- ① 私たちが大切にしていることは人と人との結びつきであること。
- ② 新しく入会される方が「入りやすくなるために」入会初年度の「年会費」を無料にしていること。
- ③ メンバーが参加しやすいように、「365日間予定表」と翌月と翌々月の「行事予定表」を作っている。

と話しました。

事例発表をした「NPO サポーターズ 地域の縁側 えん」(藤沢市補助事業)の野村さんが自宅を提供して地域の人の居場所をコロナ中にも広げて行ったことを、皆で子供を育てるフリースクールを作った「NPO 法人 優」のお話には感動しました。

事例発表後のグループワークは参加した団体同士の交流が出来てたいへん盛り上がりました。参加者から「元気に活動するじゃおクラブの活動がよくわかりました。」との発言があり、また今後参加したいイベント、講座の「アンケート」で「じゃおクラブに参加したい」と書かれていたそうで、じゃおクラブの活動を理解して貰えたと思いました。

(湘南 島村 忠男 記・写真 藤沢市市民活動支援施設 提供)

## じゃおベイサイド

### 桜よ！待っていました～2024 春

2 月時点の桜の開花予想が 3/20 なので 3/27 をベイサイドのお花見会としましたが、寒さと雨で、4/1 に変更。ところが当日無情にも朝から雨。急遽翌日 4/2 に変更。根岸駅に集合した方と開催地根岸森林公園に現地集合した方と計 14 名で公園入り口に集まる。公園を見渡すとまだソメイヨシノは 3, 4 分咲き。そこで丘の上に目立って咲く桜に向け歩き出す。近寄るとジン



ダイアケボノとの名札。その樹の近くにシートを敷く。その上に飲み物、つまみ等を並べ、早速、がんば～い！しばし飲みつつ、歓談。・・・1912 年日本から米国にソメイヨシノが送られます。そのソメイヨシノが他の桜と交雑し Akebono という品種が誕生します。1965 年逆に日本に持ち込まれ、神代植物公園で接ぎ木されて育てられた。そのうち 1 本が Akebono と異なる特徴の花をつけました。この桜こそジンダイアケボノです。ソメイヨシノに比べ丈夫で病気に強く、咲く時期がほぼ同じで樹形が小ぶりで、狭い場所に植えても邪魔にならない。花色は濃い目のピンク色である。・・・酒と桜と青空を満喫した後、解散。又来年。それまでお元気で！

さまざまの事 思ひ出す桜哉（芭蕉）

初桜 折しも けふは 能日なり（芭蕉）

さくら咲いて、なるほど日本の春で（山頭火）

（ベイサイド 真島 記・諏訪 写真）

### 神代植物公園 花の撮影 ～グラファーズ～

4月2日（火曜日）のグラファーズの撮影会は、桜が咲き始めた神代植物公園で行われました。参加者は1名体調不良で欠席でしたが5名が集まり、快晴とはいえないまでも晴れ間のある天候で予定時間を超える2時間ほどの撮影を楽しむことができました。

神代植物公園には約4,800種類、10万本・株の植物が植えられています。園内は、ばら園、つつじ園、うめ園、はぎ園をはじめ、30ブロックに分けられて、景色を眺めながら植物の知識を得ることができるようになっています。各種展示会などを開き、植物に対する関心を高めるのに一役買っています。平成28年には大温室がリニューアルオープンし、珍しい熱帯の植物が集められ、彩り鮮やかな花々を鑑賞できるようになりました。



桜を撮る上で何が難しいのかというと、まずは「色」の表現です。あの微妙な白とピンクの間のようなソメイヨシノの色合いを綺麗に写すことがこれまた難しいのです。青空や緑がうまく背景になれば色のコントラストもありいいのですが、くもり空だと色あせて華やかというよりは寂しそうな表情に見えてきます。つぎに「ピント」です。いったいどの枝、もしくはどの花にフォーカスすればいいのか？花の数が多すぎていつも迷ってしまいます。

ソメイヨシノはまだ2分咲程度で残念でしたが、サトザクラ、シダレザクラ、ヤマザクラ、オオカンザクラなどがありほぼ5分咲～8分咲でした。ここにはジンダイアケボノと命名された当公園独自の桜があります。ソメイヨシノ系の桜でありながら花色が淡紅色のグラデーションがとてもきれいな品種で、これはほぼ満開に咲いていました。ほかにもハナモモ、ツバキなどがあり園内風景とともにカメラに収めることができ、撮影会の目的が果たせたのではと思っています。

撮影会後の反省会は、深大寺そばで有名な玉乃屋でざるそばを食し、天ぷら、おでんなどをつまみに般若湯をたしなみ、本日の撮影について各自それぞれが深く反省し、次回に臨むことを確認してお開きとなりました。今日も楽しい1日でした。

(多摩・田園 千葉 敏行 記・写真)

## 天気予報や防災情報の裏側を知る～気象庁見学～

多摩・田園では、4月24日「仲間と街歩き」で気象庁へ行ってきました。気象庁は大手町から移転し、今は虎ノ門にあります。最寄りの東京メトロ日比谷線の虎ノ門ヒルズ駅で降りてビックリしました。駅は49階建ての超高層ビル、虎ノ門ヒルズの地下2階にあります。周囲には高層ビルが立ち並び、多数のビルが建築中で、変わっていく東京、未来の東京を感じました。

気象庁1階のロビーで待っていると、併設されている気象科学館の解説員の方がお越しになりました。入館パスを身に付けて「オペレーションルーム見学ツアー」の始まりです。参加者は、午前・午後の2班に分かれて見学しました。それぞれ9人、合計18人の参加でした。

気象庁は気象や地震、火山などの自然現象の観測、天気予報や気象警報の発表などを行っています。

気象観測は、静止気象衛星「ひまわり」の画像や、気象レーダーによる雨の強さや風の分布の観測、ラジオゾンデやウインドプロファイラを使った上空の気圧・気温・湿度・風向・風速などの観測、全国約1,300箇所に設置されたアメダスによる降雨量の観測などで、このデータが予報などの元になります。

最初は「気象防災オペレーションルーム」に案内されました。この部屋では、気象観測データを元にスーパーコンピュータを用いて予報を作成しています。できあがった予報は、天気予報や台風予報、飛行機の運航に必要な航空気象情報、船舶の運航に欠かせない海上警報・予報などで、「気象情報伝送処理システム」を用いて全国の関係機関に送られます。このシステムは24時間365日、安定して運用するために、東京と大阪に同じものを設置し、二重化しているそうです。(写真上)



続いての見学は「地震火山オペレーションルーム」

でした。日本は世界有数の地震国で、震度1以上の有感地震は年間で1,000～2,000回発生しているそうです。地震や津波のデータをリアルタイムで処理できる「地震活動等総合監視システム」と、全国の火山を監視する「火山監視情報システム」が活躍しています。観測・監視を行い、地震情報、津波警報、噴火警報などを出しています。南海トラフは常時監視の対象になっていました。(写真下)

今年3月にスーパーコンピュータが新しくなり、天気予報の精度が向上したそうです。私たちの暮らしを守るため、オペレーションルームでは、皆さんが24時間265日交代制で働いておられました。

見学の後は、気象科学館で観測機器や地震・津波・竜巻などのシミュレーションを見たり、隣接する「みなと科学館」のプラネタリウムを見たり、安くておいしいと評判の気象庁食堂で社員食堂の雰囲気を楽しんだり、銘々が楽しい時間を過ごしました。

(多摩・田園 竹内 純一 記・写真)